

3 総合的な探究の時間の取組

(1) インターンシップ

① 目的

- ア 働くこと、生きることの尊さを実感し、勤労観、職業観を醸成する。
- イ 進路選択への積極性を醸成する。
- ウ 学習意欲の向上をはかる。
- エ 「基礎的・汎用的能力」を育成する。

② 対象生徒

1 学年 33 名

③ 活動の概要

ア 実施の流れ

- | | |
|-----------------|---|
| 7月18日(火)〈探究1時間〉 | <input type="checkbox"/> 事前学習 インターンシップ説明 |
| 7月24日(月) | <input type="checkbox"/> 希望調査 |
| 10月〈探究4時間〉 | <input type="checkbox"/> 目標および課題設定 <input type="checkbox"/> 事業所への電話連絡
<input type="checkbox"/> 履歴書書き |
| 11月9日(木)～10日(金) | <input type="checkbox"/> インターンシップ |
| 11月13日以降 | <input type="checkbox"/> 事後学習 振り返り・礼状書き・報告会準備 |
| 12月7日(木) | <input type="checkbox"/> インターンシップ実施報告会 |

イ 令和5年度 実習先一覧

- ・国際協力機構(JICA)北海道センター(帯広)
- ・社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター
- ・公益財団法人北海道医療団 介護老人保健施設とかち
- ・医療法人徳洲会 帯広徳洲会病院
- ・大樹町老人デイサービスセンター
- ・社会福祉法人大樹福祉事業会認定こども園たいき認定こども園
- ・帯広大谷短期大学付属音更大谷幼稚園
- ・森のスパリゾート 北海道ホテル
- ・ベルクラシック帯広
- ・ホテル大樹
- ・音更町図書館
- ・大樹町図書館
- ・大樹町役場
- ・大樹町農業協同組合
- ・有限会社 林自動車整備工場
- ・高堂建設株式会社
- ・岡書 帯広イーストモール店
- ・ジョイフルエーカー帯広店 ペットワールド
- ・ライトオン イオン帯広店
- ・ばんえい十勝調教師
- ・食堂このみ
- ・池下産業株式会社 Bay Lounge COFFEE
- ・ラーメン飯店大将
- ・和風イタリアンちょっと

ウ 事前学習

○ 目標および課題設定

7月に生徒向けガイダンスを実施した。インターンシップの目的について、企業は高校生にどのようなことを望んでいるのか・求めているのか。そして今後の流れやインターンシップ実施報告会について確認し、生徒それぞれが目的意識を持って臨むことを丁寧に指導した。「職業観を身につける」「仕事の普段見ない一面をしっかりと理解する」など、「働くことの意義」について考える時間を設けた。

○ 事業所への電話連絡

目的を定めた上で、初めての直接的なやりとりとなる電話連絡（アポイントメント）を実習先ごとに実施した。インターンシップ当日までの事前準備や、当日のスケジュールを電話を通じて各生徒が行うことで、インターンシップに参加する実感を持ち始める。生徒はよい緊張感を持って丁寧に、真剣に取り組むことができていた。

○ 履歴書書き

電話連絡と並行して、実習先に提出する履歴書の作成も実施した。3年次で進路に関わる公的な文書を作成する生徒が大半であることを鑑みて、1年次より「美しく丁寧に、正しい言葉遣いで」履歴書をまとめるということを心がけながら指導を行った。

エ インターンシップ

11月9日(木)～10日(金)の2日間にわたるインターンシップは、各実習先ごとに集合場所・集合時間が異なるため、それぞれが電話連絡で確認した内容を基に各自で実習先まで赴くところから始まる。教員は巡回のみとなるため、それぞれの生徒が活動した内容は、「実習日誌」という形で記録として残るようにした。



オ 事後学習

○ 実習先への礼状作成

実習後は、お世話になった実習先に対して礼状を作成した。履歴書書きでの学びを生かし、丁寧に書くことがしっかりと身につけている生徒が多くみられた。

○ 報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成

「情報Ⅰ」の授業を活用し、報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成を実習先ごとに行った。相手に伝わる表現方法を身に付けることを目標としてそれぞれが工夫し、パワーポイントや説明台本をしっかりと作りこむことができた。

カ 報告会

12月に活動の集大成として、御協力いただいた実習先・保護者に案内を出し、本校体育館にて報告会を実施した。1年生にとっては高校生活の中で最も大きな舞台での発表の場となった。実習先ごとに体験した内容を発表し、さまざまな職業に対する見聞を深める時間を作ることができた。

④ 成果及び評価

高校1年生段階においては、卒業後の進路がまだ定まっていない生徒がほとんどである。2日間という長時間にわたる実習を通じ、普段見ることのできない仕事の一面を肌で感じることでできる体験プログラムとなっている。インターンシップを通じ、「働くこと」の意義や、職業に対する理解が深まり、その後の進路活動に生かされている。

⑤ 今後の課題

生徒の希望する企業を、「令和4年度（2022年度）十勝管内公立高等学校インターンシップ受入事業所一覧」を参考にし、企業を決定した。11月という時期では受け入れが厳しい企業や、1年生の後期の実施時期ではまだ社会性が身に付いていない生徒もいて、この時期の実施について検討していくことが課題である。

(2) 台湾見学旅行

① 目的

- ア 集団生活を通して、ルールを守ることの大切さを学び、自己管理する力を養う。
- イ 仲間との交流や、学校交流を通して、人間関係形成の力を養う。
- ウ 自ら積極的に学ぶ姿勢を持ち、国際社会の一員としての自覚と資質を養う。
- エ 他国の生活文化を尊重・理解すると共に、日本の伝統と文化の特色についての認識を深める。

② 対象生徒

2学年 27名

③ 活動の概要

ア 行程

10月17日(火)	大樹-台北 台北	大樹高校-新千歳空港-台湾、桃園空港へ移動 士林夜市見学
10月18日(水)	台北	忠烈祠見学 故宮博物院見学 台北-高雄へ新幹線を利用して移動
10月19日(木)	高雄	パイナップル狩り体験 仏陀記念館見学 義守大学日本語学科生徒との交流(日本文化の紹介) 大樹區表敬訪問
10月20日(金)	高雄	自主研修(義守大学日本語学科学生とともに) 高雄-台北へ移動
10月21日(土)	台北-大樹	台湾、桃園空港-新千歳空港-大樹高校へ帰着

イ 事前学習

○ 教科等横断型授業の実施(9月15日、9月26日)

台湾見学旅行の実施に向けて、事前学習として「たいわんDAY」を設けて、さまざまな教科の観点から、台湾について学ぶ教科横断型授業を実施した。

社会科 ワークシートを使用しながら、台湾の政治、経済、歴史、気候、地理について学びを深めた。



理科 台湾の植物である「愛玉子(オーギョーチ)」の種子が、水の中に入れるとゼリー状に固まる仕組みについて、科学の観点から実験等を交えて学んだ。



音楽科 台湾の歌である「望春風」を、歴史や言葉の文化を紐解きながら学び、実際に歌唱した。



英語科 A L Tとの交流を通じ、「海外旅行において役に立つ英会話」をテーマにロールプレイを交えて学んだ。



家庭科 帯広調理師専門学校から講師をお呼びして、台湾の代表的な食べ物である「ルーロー飯」の調理実習を行った。



○ 義守大学学生とのオンライン交流、自主研修行程のプランニング

台湾見学旅行において、現地の義守大学日本語学科の生徒と交流する機会を設けている。交流前の顔合わせと、現地における自主研修の打合せとして、オンライン交流を実施した。高校生が事前にインターネットで調べて作成した自主研修の行程表を基に、実現できるかどうか、よりよい行程はあるかなど、各班で打合せを行った。



○ 義守大学学生に向けたプレゼンテーション準備

台湾見学旅行において、大学生との交流の一環として、日本文化について、本校生徒が大学生に向けてプレゼンテーションするプログラムを準備した。実施する内容の検討、必要物品の準備、プレゼンテーションの練習等を実施した。



○ 手作りお土産作成

現地では、ガイドや大学関係者、帯同看護師等多くの方にお世話になることを踏まえ、手作りのお土産を作成することとした。生徒がアイデアを出し合い、今年度は「菓子の箱を再利用したストラップ」を計100個ほど作成した。



ウ 見学旅行

○ 義守大学学生との文化交流(10月19日)

義守大学日本語学科の1年生総勢100名に対して、3つのグループを準備して日本文化についてのプレゼンテーションを実施した。

・ グループ①「茶道・書道」

「書道」グループにおいては、大学生に実際に筆を持って頂き、事前に準備しておいたお手本を基に、「ひらがな」「漢字」を半紙に書いて頂いた。筆の使い方や、書き方について本校生徒がその場でレクチャーするなど、コミュニケーションを取りながら活動する姿が見られた。

「茶道」グループにおいては、日本から持参した抹茶やお菓子を振る舞った。茶筌・茶碗も準備し、大学生に実際に抹茶をたてていただいた。

・ グループ②「日本の遊び」

「日本の遊び」グループにおいては、「とんとん相撲」「福笑い」「手遊び」「独楽まわし」等、いくつかの交流ブースを設け、レクチャーをしながら大学生と一緒に遊びを体験していただいた。身振り、手振りでコミュニケーションする他に、日本語が分からない学生にも分かりやすいようにイラストや、Google翻訳を活用した説明文を添付してあるレクチャー用のシートを使用するなど、工夫が見られた。

・ グループ③「日本のマンガ、アニメ」

「日本のマンガ、アニメ」グループにおいては、大学生と一緒にキャラクターの塗り絵をするチームと、日本のキャラクターに関するクイズを実施するチームに分かれて活動した。「どんなアニメを普段見ていますか？」など、会話のキャッチボールをしながら活発に活動する姿が見られた。





○ 自主研修(10月20日)

6つの班に分かれ、台湾で第2の都市と呼ばれる高雄市内を義守大学学生と散策した。事前に各班で作成した行程を基に、地下鉄やタクシー、フェリー、レンタサイクルなど、さまざまな公共の乗り物を利用しながら半日行動し、台湾の文化や食、風土に触れた。



○ 台湾 観光地見学

4泊5日の行程の中で、計5箇所の観光地を巡り、台湾の文化に触れる機会を設けた。それぞれの観光地で、台湾の文化や歴史に触れ、日本文化との違いを体感する機会を持った。



台北・士林夜市(10/17)



台北・忠烈祠(10/18)



台北・故宮博物院(10/18)



高雄・仏陀記念館(10/19)



高雄・パイナップル狩り(10/19)

○ 大樹區表敬訪問(10月19日)

大樹町は平成27年より、台湾の高雄市大樹區(だいじゅく)と友好交流協定を結んでおり、今回の見学旅行においても区役所を表敬訪問し、交流を深めた。



エ 事後学習

○ 見学旅行報告会(11月27日)

見学旅行の事後学習として、「見学旅行報告会」を本校体育館にて実施した。見学旅行終了後、パワーポイントを使用したプレゼンテーション資料の作成を、情報科と連携して行った。次の4点について、班ごとに発表を行い、活動全体のふりかえりの機会を持った。

- ・各研修班による自主研修報告
- ・義守大学との交流に関する報告
- ・観光地に関する報告
- ・大樹區表敬訪問報告



④ 成果及び評価

見学旅行を実施するにあたり、4つの目標を掲げてさまざまな活動を行ってきた。結果的に、それぞれの目標をしっかりと達成できたのではないかと考える。

見学旅行の行き先を生徒に伝えた年度当初は、「海外に行くのは不安だ」「国内が良い」「言葉や食事の壁がある」など、否定的な意見が多かった。しかし、すべてを終えてみると、台湾への渡航に対して肯定的な意見が非常に多くなった。肯定的な意見が増えた理由は生徒それぞれであるが、事前学習から報告会に至るまでの過程で、生徒一人一人がそれぞれの視点で、「台湾」について理解を深めることができたのであろうと考える。

10月の渡航までに、教科を横断した事前学習や現地大学生との交流のための準備、さらにはICTを活用したオンラインでの現地交流を実施したことで、生徒達は「なぜ見学旅行で台湾に行くのか」をよく考え、旅の目的を意識しながら積極的に学びに向かうことができた。渡航前にさまざまな視点から学びを深めることで、旅行に向けて気持ちを高めることができ、さらには旅行中にも事前学習での学びを生かすことができていた。

台湾での旅行中、多くの場面で日本との文化の違いやそれぞれの国のよさ、課題等に触れることができた。さらに、旅行中現地ガイドや現地大学生との交流を通し、「人のあたたかさや優しさを感じることができた」という評価をしている生徒も多かった。

報告会において、それぞれの班が旅行で得た経験について、生き生きと発表することができた。

⑤ 今後の課題

新型コロナウイルス感染症の影響で、見学旅行の渡航先が過去3年間国内となっていたところ、今年度は状況を見ながら台湾への渡航を実施することができた。3年間の隔たりで、大学との連携や旅行行程の調整についても多くの時間をかけることとなった。今後も、国際情勢に合わせて渡航について十分に検討しながら進めていく必要がある。

台湾への渡航は、ほとんどの生徒にとって「初めての経験」であるし、現地で得ることのできる体験は生徒の視野を広げる上で、大変有意義である。より見学旅行の価値を高めるために、大学との交流内容や事前学習の内容をしっかりと今後も検討していく必要がある。学年の活動に留まることなく、生徒の3年間の成長過程の中に含まれる活動としての意義を見いだせるよう、よりよい計画・運営を行っていきたい。

(3) 進路強化研修

① 目的

自らの今後の進路について集中的に探究することにより、自己についての理解を深めるとともに、個々に応じた進路活動の取組を充実させる。

② 対象生徒

3学年 23名

③ 活動の概要

2023年(令和5年)6月26日(月)に1日(6時間)かけて実施した。3学年生徒は、ア 大学・看護コース4名、イ 短大・専門学校コース13名、ウ 就職コース6名の3コースに分かれ、コース別に自らの進路活動に必要な取組を行った。以下、コースごとに取組の概要を記述する。

ア 大学・看護コースは、主要教科による試験が課される大学や看護学校への進学を志望する生徒が対象である。必要な学力を確認し、目標に到達するための学習計画を立案するための取組として、

1・2校時に Benesse の高尾優希氏を講師とした「大学・高看進学のために必要な勉強」と題する講演を聴講した。その後は講演の内容を踏まえて生徒たちに学習計画を立案させ、教員のアドバイスを受けながら自学自習のやり方を考え、今後の実践につなげた。

イ 短大・専門学校コースは、学校推薦型や総合型入試を利用する短大・専門学校受験志望者が対象である。入試の際には志望理由書等の作文や面接が必要となるため、1・2校時には実務教育出版の教材『基礎小論文 ワーク&添削』を購入して小論文指導や自己PR作成指導を実施した。3・4校時には学校法人三幸学園札幌入学相談室主任の山智之氏をお招きし、「面接で高評価を得る望ましい生徒像」と題する講演を行った上で、山氏の指導による面接実技講座を実施した。5・6校時には本校教員による模擬面接を行い、それを生徒どうしで論評することで、自らの面接姿勢の改善につなげる取組を行った。

ウ 就職コースは本研修以前に面接で頻出する質問について考察を進める取組を行っており、その成果を踏まえて1校時に北海道教育庁十勝教育局進路相談員の八幡裕樹子氏による模擬面接指導講座を受講した。さらに2～4校時は八幡氏のほか、大樹町商工会、大樹町農業協同組合の御協力を得て模擬面接を実施し、面接態度や内容等を評価していただいた。5・6校時は帯広市のホテル日航ノースランド帯広で開催されたジョブカフェ主催の合同企業交流会に参加し、十勝管内各企業の企



業説明を受講した。

④ 成果及び評価

本年度の生徒は概ね進路希望を実現することができているが、その結果に一定の寄与ができた研修であった。②と③のコースはいずれも面接練習が中心であったが、23名中21名が何らかの面接・面談を経て合格を決めており、集中的に面接練習ができる機会をもつことには大きな意義がある。また、丸1日を研修とすることで外部講師、一般企業と交流しやすい日程を組むことが可能となっており、教員以外の視点から生徒の取組を評価していただく機会となっている。思わぬ指摘を受けることで、自分の新たな一面に気づくことができた生徒もいた。

⑤ 今後の課題

研修の内容について、従来1ヶ月前を目安に決定してきたが、今年度は感染症の流行等で突発的に動きが取れなくなる事態があったため、強化研修までの進路関連の学習を前年度の段階から総合的に計画し、調整を行いたい。また、進路活動終了時に進路強化研修の意義等について振り返りをさせ、その効果について具体的に分析したいと考えている。

(4) 室蘭工業大学連携授業

① 目的

出前授業を核として教科等横断型学習を実施し、工学やモノづくりの情報に触れることで大樹町の科学技術産業に興味・関心をもつ生徒を増やす。

② 対象生徒

1学年33名、2学年27名

③ 活動の概要

令和5年度は室蘭工業大学の清水一道副学長に來校していただき、2時間分(1時間の授業を2学年分)出前授業を行った。令和6年2月末にも同様の時程で出前授業を行う予定である。

ア 令和5年12月12日(火)3校時(2学年)

「工学の最先端－ロケット工学概論－」と題して講義を行った。はじめに、工学とは何を学ぶ学問なのか、高校で学ぶ物理がどう応用されているのか説明を行った。

その後、機械の耐久性やエネルギー利用を題材に、定量的な評価の方法や設計による工夫について数式を用いた説明を行った。最後に、航空機やロケットへの応用として、空気力学、推進力学、誘導制御について、動画を交えた説明を行った。

イ 令和5年12月12日(火)4校時(1学年)

「ものづくり産業－自動車工学概論－」と題して講義を行った。はじめに、清水教授の自己紹介があり、工学とは何を学ぶ学問なのか、社会にどう貢献しているのか、どんな人が工学部へ進むのか説明を行った。その後、モノづくりや金属の加工法について歴史や意義の説明を行った。最後に、エンジンの動作、車体の材料と部品の加工法、車輪やワイパーの動きの制御といった機械工学の応用例について、動画を交えた説明を行った。



④ 成果及び評価

高校側と大学側での事前打ち合わせで、大学側が提供できるコンテンツ、高校側が生徒に紹介してほしい内容、本校生徒の興味関心についてすり合わせることができたので、昨年度の講義よりも生徒が関心を持って話を聞き、結果として理解度が増していた。

事前に資料をデータでいただくことで、生徒は講義の概要をある程度把握することができた。教員は講義の内容が高校での学習とどうつながるのか予測でき、事前・事後の教科の授業の中でやや難解な部分のフォローを行ったり、テーマを掘り下げたりすることができた。

生徒の振り返りを見ると、「世界の歴史をたどりながら、様々な角度から工学を学べてとても面白かった。」「身近なものにも化学や数学が使われていて驚いた。」「エネルギーについて自分たちで調べた後だったので、関係している部分があって面白かった。」「工学について興味がなかったけど、お話を伺うことで専門的なことを学ぶ楽しさに気付けた。」「機械系、電気系、建築系、科学系など、様々な人が協力して物をつくっていることが分かった。」といった記述があり、教科間の学習の繋がりを意識させたり、モノづくりへの興味を引き出すことができたといえる。

⑤ 今後の課題

本校生徒の実態に合わせた講義を行ったが、理系分野の専門的な面白さを伝えるためには、どうしても数式や複雑な図解を用いる場面があるため、理系分野に興味をもっていた生徒とその他の生徒で熱量に差が出てしまう場面があった。

講師の清水教授はモノづくりの第一線で活躍している教授であり、他では聞くことができない貴重な講義をしていただいたが、研究等の本業が忙しくスケジュール調整に苦慮した。清水教授には昨年度から数えて5回も来校していただいたが、講義の題材や伝えたいメッセージについて重複があるといった指摘を一部生徒から受けた。今後は、持続可能性の面からも清水教授以外の室蘭工業大学の方にも協力を仰ぎながら連携授業を進め、年度ごとに多様なコンテンツを展開したい。

4 大樹スタンダードにおける取組

(1) CST (コミュニケーション・スキル・トレーニング)

① 目的

ア 第1学年

- ・自他の個性を受容する柔軟な心を持ち、互いに高め合える集団を作る。
- ・自らの可能性に気付き、様々な場面で主体的に挑戦する意欲と行動力を育む。

イ 第2学年

- ・自他の個性を受容する柔軟な心を持ち、互いに高め合える集団を作る。
- ・様々な場面で自ら挑戦する意欲と行動力を育む。

ウ 第3学年

- ・自分の行動が周りにどのような影響を与えるかを考えて行動する意識を育てる。
- ・自己管理能力の育成。

② 対象生徒

1学年 33名、2学年 27名、3学年 23名 計 83名

③ 活動の概要

1学年 第1回目：令和5年 5月29日(月) 5～6校時

第2回目：令和5年 11月 2日(木) 5～6校時

2学年 第1回目：令和5年 5月23日(火) 5～6校時

第2回目：令和5年 10月12日(木) 5～6校時

3学年 第1回目：令和5年 5月31日(水) 5～6校時

第2回目：令和5年 10月18日(水) 5～6校時

1学年



<リラクゼーション体験>

2学年



<相手への効果的な伝え方>

3学年



<心をひとつに>



<スクールカウンセラー講話>



<ペーパータワー作り>



<自分の力で生きていく>

④ 成果及び評価

ア 1 学年 ・聞き方について学ぶ、自分の伝えたいことを上手に伝える

・インターンシップに向けビジネスマナーを身につける

十勝南部の様々な中学校から来ている集団が1年A組になりまだ日も浅い5月下旬。緊張感も漂うなか、自他の個性を受容する柔軟な心を持ち、互いに高め合える集団を作ることを目標に CST を計画・実施した。

第1回目は、5月にそれぞれの考え方があることを理解し、他者を理解するとともに、自分の思いも伝えることや、発想や価値観・自己概念が異なる人たちと合意形成していく中で、自己概念の違いに気付くことを目指して実施した。最初のワーク「つながりを作ろう」では、非言語でグループを作るのに時間を要したが、クラスの中からリーダーとなり、その場を仕切ることができる生徒が現れた。次のワーク「聞き上手」では、聞く態度について学んだ。話し合いをする準備段階として、自分の話を聞いてもらうことの嬉しさや、相手の話に耳と心を傾けじっくり話しを聴く態度を身に付けることができた。本時間のメインである「4人の体験」では、それぞれの立場でどの人物に好感をもったか、それを先程のグループで共有し、自分と異なる考え方をする人について、受容、またなぜそのような考えに至ったかについて共有した。生徒はグループワークに慣れており、自分の意見を発表する・相手の意見を聞くなどが、スムーズにできていた。

なお、スクールカウンセラーの勝崎一也氏にも CST を見ていただき、最後に生徒へ助言いただいた。生徒もいつも接している教員とは違う立場の大人からの話を真剣に聞き、良い刺激になっていた。

第2回目は、11月上旬にインターンシップの実施に向け、対人コミュニケーションについて知ることや、非言語コミュニケーションについて、良好な対人関係を築くことを目指して講義を行い、その後ワーク「話し上手になろう～話すことの意味・技術」を実施した。

また、インターンシップで起こりうるさまざまな場面に対応するコミュニケーション力を身に付けるため、場面を想定してロールプレイを実施した。

1年を通して、様々な特性を持つクラスメイトを何気なくフォローして、困っている場合には教員や周りのクラスメイトに相談をし、早期に対応し解決することができた。何事も起きないわけではなく、その時々で生徒たちが考えて動くことができるような集団になってきている。

イ 2 学年 ・「お題に合わせて素早く並ぼう」「ジェスチャーしりとり大会」「ペーパータワーにチャレンジ」

・「状況に応じて素早く整列」「相手が受け入れやすいような伝え方」「義守大学生との交流時における適切な関わり方」

上手なコミュニケーションを実践する上で心掛ける4つの指針「どの場面においても丁寧語で会話をしよう」「相手の意見は一先ず受け止めよう」「自分の意見を押しつけないようにしよう」「自分の良かった点、仲間の素晴らしかった点を見つけよう&認めよう」を“CST4カ条”として提示し、種々のトレーニングに取り組んだ。

第1回目の前半は、自分の意見を自分の力で相手に伝える手段を発見し、試行・実践することをねらいとして、難易度別4段階に設定したテーマに沿って制限時間内に整列を完了することと、ジェスチャーしりとりにも挑戦した。正確さと迅速さを求め、主体的に自分自身の情報を開示したり、他者に関する情報を共有し合ったりする様子が見られた。一方で、相手からの言葉掛けを待つ姿が散見されたものの、しっかりと応答して素早く次の行動に移すことはできていた。会話と筆談を禁じ手とする設定で取り組んだプログラムにおいては、アイコンタクトや豊かな表情で訴える、描画

するといった、伝え手側の工夫する場面が見られた。対して、相手の思いを的確に読み取り理解しようとする受け手側の懸命な姿も見られた。後半は、自分の意見を臆することなく伝えることと、仲間の意見を最後までしっかり聞いて受け止めることをねらいとして、規定枚数の A4 用紙のみを用いてより高く積み上げるプログラムに挑戦した。仲間の得手不得手などを確認し合った上で役割分担をするグループ、グループ内で出た全てのアイデアを紙面に書き出したり試作したりしながら進めるグループ、人前での発言が苦手な心情に寄り添いながら圧迫感を与えないよう努めて仲間に意見を求めるグループ、作業途中で倒壊した際に励ましの言葉を掛け合いながら再挑戦するグループなど、終始相手を思いやりながら取り組む姿が見られた。様々な対話の手段があること、“C S T 4 カ条”を心掛けることにより落ち着いて相互にコミュニケーションを図ることが可能であることを学ぶことができていた。

第2回目は、前回に引き続く“4カ条”に「相手からの問い掛けに必ず反応しよう」を加えた“C S T 5 カ条”を踏まえて活動に取り組むこととした。台湾見学旅行に向けて、義守大学の学生との交流を想定したコミュニケーションと、想定しうるトラブルおよび対応策についての事前確認をコンセプトに、相手が受け入れやすいような伝え方を考察した。前半は、「話しやすい人・話しにくい人の例」と「そのように感じる理由」について、各自の経験や日頃心掛けていることを振り返り、仲間と意見交換をした。その結果、ゆっくりとした話し方、声の強弱、マイナス表現に値する語彙の不使用、言葉尻まではっきりと話す、会話をする際の表情に気を配ることにより、「穏やかに伝えることが相手にとって受け入れやすい状況を生み出す」ことに気付くことができ、これをクラス全員で共有していくことを確認した。後半は、大学生に向けて3部門に分かれて日本の文化を紹介する活動の準備およびシミュレーションの取り組みを経て、プレゼンテーションのリハーサルに挑戦した。前半活動を踏まえながら、言語、年齢の異なる相手が受け入れやすいような伝え方を検討し、グループごとに共通理解を図りながらシミュレーションに取り組んだ。さらに、他部門の仲間を相手にリハーサルを行い、互いに良かった点や改善点について意見交換を行い、各部門内ならびにクラス全体で課題を共有した。自分と他者との考え方や受け取り方にギャップがあることに気付くことができていた。

普段の学校生活や学校行事において、相手を慮らず一方的に話す、相手を急かしたり責め立てたりするといった言動は見られなくなってきた。また、柔和な表情で穏やかに声を掛け合う、相手の発言を一先ず受け止める、目標達成に向けて仲間と気持ちを合わせようと努力する場面が見られるようになってきた。

ウ 3 学年 ・心をついに～チームビルディング～・グループとチームの違いは何か

・ソーシャルスキルトレーニング～自分の力で生きていくために必要なこと～

第1回目の前半は、グループからチーム（共通の目的を持った組織）へとクラスを成長させるために、非対面型→対面型（非言語：表情、アイコンタクト）→対面型（+身振り・言語）を実践した。後半は、学校祭に向けて互いの意思を尊重したコミュニケーションの在り方を考えることを念頭に、ロールプレイを通して KJ 法でグループの意見をまとめた。

第2回目は、自立について考えることをゴールに、グループ内で発表を行い、最後に全体で発表をすることで意見の共有をした。卒業後の自立を意識させるために、「社会的自立」「生活的自立」「精神的自立」「経済的自立」の4つのキーワードを提示し、残りの学校生活の目標を立てさせた。

どの活動にも意欲的に取り組み、グループワークの際には生徒・教員問わず他者に対して寛容で、非常に協力的であった。もともと欠席が少なく、普段から良好な人間関係ができていたクラ

スで、些細なことでも何かを学ぼうとする姿勢が見られた。

⑤ 今後の課題

全体的に見ると落ち着いた学校生活を送ることができているが、個々の抱える課題はそれぞれ大きい。学習に関すること、生活に関すること、心身に関すること、家庭に関することなどさまざまである。中でも本校生徒の大きな課題と感じるのは、「自己肯定感」の低さ、「助けを求める力」の弱さであると考えている。

このC S Tの取り組みが、この時間だけのものにならないようにするために、日頃からの生徒との関わりやC S Tの要素を意識した授業を展開するなどの継続指導が必要で、教員にそのスキルが求められる。教員研修を行い、共通理解を図ることも必要であると感じる。また、本校では子ども理解支援ツール『ほっと』を活用するなどして教育相談を充実させ、生徒一人一人に寄り添い、向き合いながら、伴走者としての役割を意識し取り組んでいる。

学 習 指 導 案

日 時	令和5年5月29日(月) 5～6校時	場 所	視聴覚教室
教 科	LHR	授 業 担 当 者	◎上村、大寺、増田、林
単 元 名	第1回 コミュニケーションスキルトレーニング	対 象 者	1年A組 【男子8名・女子25名】
本 時 間	・聞き方について学ぶ・自分の伝えたいことを上手に伝える		
1学年目標	自他の個性を受容する柔軟な心を持ち、互いに高め合える集団を作る。		
本時の目標	●発想や価値観(自己概念)が異なる人たちと合意形成をしていくなかで自己概念の違いに気づく。 ●それぞれの考え方があることを理解し、他者を理解するとともに、自分の思いも伝える。		
教材・教具	ワークシート(振り返しシート)、シール5色、スピーカー、デジタイマー、マイク		

◇:MT ◆:ST ☆:備考等

段 階	学習内容	生徒の学習活動	教員の指導・支援
	挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・日直が号令をかける ・机を教室の隅に寄せて、椅子で丸く内側を向き座る 	☆教室の明かりを消して、落ち着ける音楽を流しておく。
導 入 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・リラクゼーション ・つながりを作ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・目を閉じてリラックスできるように呼吸を整えたり、手を動かしてみる ・額に貼られたシールを指示通りに、無言で並び ・正しくつながって並んだか確認できたら、ふりかえりシートに記入。2～3人で感想をシェアする。 	◇生徒たちが目を閉じている間に額にシール緑・青・赤・黄・白(7人×3・6×2)をランダムに貼る。 ◇ふりかえりシートを配る。 ◇黑板掲示。指示内容を読み上げる。
展開② (35分)	・聞き上手	<ul style="list-style-type: none"> ・2人1組を作る。最初に話す人とその話を聞く人を決める。「話しを聞きたくないという表情で聞いてください」 ・話す人と聞く人を交代する。「今度は聞きたいという表情で聞いてください」 ・ふりかえりシートに記入する。 ・2人ペアで感想をシェアする。 ・全体でワークから気づいたことをシェアする。 	◇内容: ・行ってみたいところ・私の趣味・将来の夢 3～5分程度 ◇ふりかえりシートを配る。 ◆勝崎SCから感想や助言をいただく。
休憩 (10分)		<ul style="list-style-type: none"> ・先程額に貼られたシール毎にグループを作っておく。 	◇5グループにワークシート・振り返しシート・別紙を配布しておく
展開② (40分)	・4人の体験	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークのねらいとルールを確認 ・別紙の「4人の体験」を学年団の先生に読んでもらう。まず個人でワークをおこなう。(10分程度)好意の持てる人は誰か決め、理由もメモする。 ・その後グループでの話し合いをおこなう(25分程度) ・グループで話し合われた結果を発表する。 ・ふりかえりシートに記入する。 ・グループでシェアする。 	◇ワークのねらいとルールを確認する。 ◆「中年会社員の体験」林 t 「アルバイト大学生の体験」増田 t 「女子高生の体験」上村 「松葉杖の青年の体験」大寺 t ◇ふりかえりシート2. グループで話し合いをしたとき、メンバーの言動がどのような影響を与えたか?については、1人については他のメンバーが順に気づいたことを述べる形で進める。
まとめ (10分)	本時のまとめ		◇時間があれば、2～3名に感想を尋ねる。 ◆勝崎SCから感想や助言をいただく。

◎持ち物 ～ 筆記用具 ◎服装 ～ 制服

学 習 指 導 案

日 時	令和5年11月2日(月) 3~4校時	場 所	視聴覚教室
教 科	LHR	授 業 担 当 者	◎上村、増田、林
単 元 名	第2回 コミュニケーションスキルトレーニング	対 象 者	1年A組【男子8名・女子25名】
本 時 間	・自分の伝えたいことを上手に伝える・インターンシップに向けビジネスマナーを身につける		
1 学 年 目 標	自他の個性を受容する柔軟な心を持ち、互いに高め合える集団を作る。		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ●発想や価値観(自己概念)が異なる人たちと合意形成をしていくなかで自己概念の違いに気づく。 ●それぞれの考え方があることを理解し、他者を理解するとともに、自分の思いも伝える。 		
教材・教具	パソコン、プロジェクター、タイマー、クリップボード33冊、ワークシート ホワイトボード(6枚)、ホワイトボードマーカー(黒6本)		

◇:MT ◆:ST ☆:備考等

段 階	学習内容	生徒の学習活動	教員の指導・支援
	挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・日直が号令をかける ・教室と同じならびで着席する 	◇振り返りシートの配布
導 入 (10分)	対人コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える手段について考える。 ・対人コミュニケーションについて知る ・非言語コミュニケーションについて ・良好な対人関係とは 	◇「伝える手段にはどのようなものがあるか」
展開① (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・話し上手になろう~話すことの意味・技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・2人1組を作る。最初に話す人とその話を聞く人を決める。 ・話す人と聞く人を交代する。 ・ふりかえりシートに記入する。 ・2人ペアで感想をシェアする。 <ul style="list-style-type: none"> ・アサーションについて知る。 ・3つのタイプを知る。 ・自分のタイプを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・伝え方について知る ・まとめ 	◇内容:①仲の良い友人のように②ニュースキャスターのように③恋人のように④敵対している人を演じてみる(それぞれ30秒ずつ) ◇内容:相手の性格や考え、取り組んでいることについて質問をして褒める(2分程度)。
休憩 (10分)			◇内容:自分の前に割り込みをしてきた人がいた。その時どのような対応をするか? ・ノンアサーティブ・アグレッシブ・アサーティブ
導 入 (10分)		<ul style="list-style-type: none"> ・日直が号令をかける 	◇目的及び伸ばしたい力を伝える。 ☞インターンシップで起こりうる様々な場面に対応するコミュカを身につけよう! ◇学習の流れを説明する。 ◆活動グループを発表! 5人×3G、6人×3G

<p>展開② (40分)</p>	<p>ビジネス マナー</p>	<ul style="list-style-type: none"> •ワークシートに自分の考えを書き込む。 •グループで考えを共有し、Good コミュニケーションにたどり着く。 •グループの結論をホワイトボードに書き込む。 •発表する。 •グループ内でロールプレイをする。 (実習生役1名・従業員役1名)×2回 <ul style="list-style-type: none"> ●アドバイスを受けるときは？ ～正確に業務が進めるためにやるべきこと ●あいさつの極意 ～1回の挨拶で自分の印象が変わる！ 	<p>◇◆活動内容が理解できていない、または参加が難しい生徒をフォローする。</p> <p>◆ホワイトボードとマーカーを配布する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①自己紹介 シーン1：初日、職場の玄関にて シーン2：初日、皆さんへの挨拶 シーン3：初日、実習終了時 シーン4：最終日、実習終了時</p> <p>②こんなとき、何と言う？ ～実習中に起こりうる様々なシーンに応じたGoodコミュニケーション</p> <p>③返事・報告 ～返事は的確に。報告はこまめに、正直に。</p> </div> <p>☆あいさつの極意</p> <p>ア：明るく サ：先に、爽やかに イ：いつも ツ：常に自分から</p> <p>◆模範演技（増田 t）～着任初日朝の再現を！</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>本時のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> •ワークシートはクリップボードに挟み、各自で保管する。 •日直が号令をかける 	

◎持ち物 ～ 筆記用具 ◎服装 ～ 制服

◎グループ1 和風イタリアンちょっと・認定こども園大樹

グループ2 大樹町老人デイサービスセンター・ホテル大樹・大樹町図書館・大樹町役場・大樹町農協

グループ3 高堂建設・ラーメン飯店大将・ベイラウンジコーヒー・林自動車・食堂このみ

グループ4 ショイフルAK ペットワールド・岡書・ライトオン

グループ5 北海道ホテル・バルクラシック・十勝リハビリテーションセンター・ばんえい十勝

グループ6 JICA・音更大谷幼稚園・介護老人保健施設とかち・音更町図書館・帯広徳洲会病院

学 習 指 導 案

日 時	令和5年5月 22日 (火) 5校時	場 所	体育館
教 科	LHR	授 業 担 当 者	◎半澤、大崎、森、原田
単 元 名	コミュニケーションスキルトレーニング	対 象 者	2年A組 27名 (男子 10名・女子 17名)
本 時 間	▶ ①「お題に合わせて素早く並ぼう」 ②「ジェスチャーしりとり大会」		
2 学 年 目 標	・自他の個性を受容する柔軟な心を持ち、互いに高め合える集団を作る。		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言動が周りに与える印象と影響を考慮しながら自己発信する意識を高めることができる。 ・自分の意見を自分の力で相手に伝える手段を発見し、試行・実践することができる。 ・仲間からの肯定的な評価を素直に受け止めることで、自己肯定感や自己有用感を高める。 		
教材・教具	ワークシート、メモ用紙(裏紙でOK)、マジック(27本)、クリップボード、付箋(大判) タイマー、ストップウォッチ、ホワイトボード&マーカー、タブレット端末		

◇:MT ◆:ST ☆:備考等

段 階	学習内容	生徒の学習活動	教員の指導・支援
		☆シャージ、筆記用具持参、体育館に設営のホワイトボード前に集合(整列不要・席指定なし)。	☆ワークシートをクリップボードに挟んでおく。
導入 (5分)	挨拶 本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・日直が号令をかける。 ・CSTの目的を理解する。 ・活動中のルール(CST4カ条)を知る。 ・学習の流れを確認する。 	◇CSTのねらいを伝える。 ☞ 自分の力でできそうな自己発信の手段を発見しよう。自分の良さを知り、自信に繋げよう。 ◇【CST4カ条】 <ul style="list-style-type: none"> ・どの場面においても丁寧語で会話しよう ・相手の意見はひとまず受け止めよう ・自分の意見を押しつけないようにしよう ・自分の良かった点、仲間の素晴らしかった点を見つけよう&認めよう
展開① (7分)	素早く並ぼう	お題に合わせ、時計回り・1つの輪になって並ぶ。並び終えたら座る。 レベル1 出席番号順(制限時間 20 秒) レベル2 背の順(制限時間 20 秒) (・見た目で判断 ・実際に背比べする ・身体測定の結果を開示する ・その他) レベル3 誕生日順(制限時間 20 秒) (1月1日始まり、月日のみで判断・生まれ年は考慮しない) レベル3までは周りと話しながらでOK! ----- レベル4 下の名前で50音順 (会話厳禁! 会話以外の種々の手段でコミュニケーション! ホワイトボード使用可!)	★いろいろな「対話」を体感しよう。 ◇出題・号令 ◆計時(原田 t)、撮影(森 t)、巡視(大崎 t) レベル2: 教員(半澤・大崎・森・原田)全員参加 レベル3: 教員 全員参加 レベル4: 教員 全員参加 ◆◇計時の結果発表(原田 t・半澤) ◇2~3名に、困った点・工夫した点等の感想を発表させる。 ◇会話以外でもコミュニケーションを取り合うことが可能であることを説明する。

<p>展開② (15分)</p>	<p>しりとり大会</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループメンバー発表 各グループ、立ったまま輪になる(並び順、計時・記録・発表等の役割分担について、グループ内で決める)。 <p>レベル1 ふつうのしりとり</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初の言葉は「りんご」。 各グループ、最初の人まで2周したら終了。最後に「ん」が付く言葉を言ってしまった場合、言い直して続行する。既出の言葉が出た場合も同様。終了したら座る。 ストップウォッチで計時し、ワークシートおよびホワイトボードに記入する(グループ全員が座った時点で計時ストップ)。 ワークシートに「りんご」から最後の言葉まで順を追ってすべて記入する。(※言い直した言葉も含む) <p>レベル2 ジェスチャーしりとり</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初の言葉は「りんご」。グループで、最初の人まで2周したら終了! ①で使った言葉は使ってはいけない しゃべってはいけない 絵を描くことはOK!(字・化学記号の使用不可、筆談不可) パスの場合、言葉を使わず仲間に伝える 計時結果および表現した言葉のすべて(順番通りに)を記入する。(※言い直した言葉、パスも含む) <p>結果発表</p> <ul style="list-style-type: none"> レベル1 およびレベル2の計時結果を各グループ発表する。 	<p>グループ分けは、普段から話しやすい仲良しチームをこちらで準備しておく。 (別紙参照:男子5, 5 女子5, 6, 6)</p> <p>◇各グループの活動場所(体育館内における位置)を提示する。(半澤・大崎 t)</p> <p>◇ルール説明・</p> <p>◇◆[実演](森 t・原田 t・大崎 t・半澤)</p> <p>たいき(半)→きつね(森 t)→ねずみ(原田 t) →みかん・あーっ!「ん」がついちちゃった …みみず(大崎 t)</p> <p>◇生徒にストップウォッチを構えさせる</p> <p>◇開始の合図</p> <p>◆巡視(大崎 t・原田 t・(森 t))</p> <p>◆撮影(森 t)</p> <p>◇ルール説明</p> <p>◇◆[実演](森 t・原田 t・大崎 t・半澤)</p> <p>たいき(半)→機関車(森 t)→山(原田 t 描画) →マントヒヒ or 瞬き(大崎 t)</p> <p>◇解答する順番を決定させる</p> <p>◇ストップウォッチを構えさせる</p> <p>◇開始の合図</p> <p>◆巡視(大崎 t・原田 t・(森 t))</p> <p>◆撮影(森 t)</p> <p>◇全員に見えるようにホワイトボードを掲げるよう言葉掛けをする。</p> <p>◇レベル1と2におけるタイム差がどれくらいか、確認するよう促す。</p>
<p>まとめ (23分)</p>	<p>グループ毎の ふりかえり (10分)</p> <p>グループ発表 (3分)</p> <p>個人ふりかえり (10分)</p> <p>次時の予告 あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各グループにおいて「MVP」を選出!(仲間の良かった点をワークシートにまとめ、褒め合う。仲間から褒められたことで、最も印象に残ったことも記録する。) 意見を集約し、ホワイトボードにMVPの名前と選出理由を記入する。 全グループ、計時の結果ならびにMVPと選出理由を発表する。 個人の取り組みを、ワークシートで振り返る。 6時間目の開始時刻・集合形態を知る。 日直が号令をかける。 	<p>◇ワークシートの取り組み方を説明する。</p> <p>◇CST4カ条を実践しながら意見を出し合い、集約するよう言葉掛けをする。</p> <p>◆巡視(大崎 t・原田 t・(森 t))</p> <p>◆撮影(森 t)</p> <p>◇全員に見えるようにホワイトボードを掲げるよう言葉掛けをする。</p> <p>◆拍手や歓声で場を盛り上げる。</p> <p>◇時間があれば、2~3名に感想を尋ねる。</p>

学 習 指 導 案

日 時	令和5年5月 22日(火) 6校時	場 所	体育館
教 科	LHR	授 業 者	◎半澤、大崎、森、原田
単 元 名	コミュニケーションスキルトレーニング	対 象 者	2年A組 27名(男子10名・女子17名)
本 時 間	▶ペーパータワーにチャレンジ!《仲間と知恵を出し合い紙をできるだけ高く積み上げよう》		
2学年目標	・自他の個性を受容する柔軟な心を持ち、互いに高め合える集団を作る。		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見・意志について、自分の力で何らかの手段を用いて相手に伝えることができる。 ・急ぎ立てたり責め立てたりせずに仲間の意見を聞き、受け止めることができる。 ・目標達成に向けて仲間と気持ちを合わせ、自分の役割を果たすことができる。 		
教材・教具	ワークシート、パーティーション(8枚程度)、A4コピー用紙(30枚×グループ)、クリップボード、付箋(大判)、タイマー、ストップウォッチ、ホワイトボード&マーカー、巻き尺、タブレット端末		

◇:MT ◆:ST ☆:備考等

段 階	学習内容	生徒の学習活動	教員の指導・支援
		☆休み時間中にパーティーションをセッティング	
導入 (3分)	挨拶 本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・日直が号令をかける ・前時のふりかえりをする ・学習の流れを確認する 	◇ホワイトボード前に集合、出席番号順・時計回りで車座するよう言葉掛けをする
展開 (31分)	ペーパータワー 活動説明 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のグループおよびメンバーを知る ・口頭説明およびワークシートの参照にてルールを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ◆グループ発表(大崎 t) 教師側で事前にグループ分けをし、当日生徒に提示(普段あまり話さない人とも組み合わせる)。 ◇本時のねらいを説明する ☞目標達成に向けて気持ちを合わせよう。自分の考えを表示しよう。相手の考えを受け止めよう。 ◇ルール説明(詳細はワークシート参照) ◆グループ間にパーティーションを立てる ◆紙(30枚)を各グループへ配付 ◇◆困っている生徒・グループに対しアドバイスを送る(大崎 t・半澤) ◇タイマーで時間を区切り、活動開始の合図をする(半澤) ◇◆巡視(全員)、写真撮影(森) →活動に影響が及ばないように歩行する ◇◆励ましの言葉掛けや拍手等で生徒を鼓舞する ◆計測(原田 t・大崎 t)、撮影(森 t) ◆パーティーションを移動させ、互いの活動が見えるようにする(森 t・大崎 t・原田 t)
	①作戦タイム(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で役割分担をする ・進行・記録・計時・計測・その他 ・グループ内で手順等を確認する 	
	②練習タイム(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・作戦を元に、実際にペーパータワーを作る練習をする(3枚まで使用可) 	
	③最終打合せ(1分)	<ul style="list-style-type: none"> ・練習を踏まえて作戦を練る 	
	④本番!(10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパータワーを作成する 	
	⑤計測および結果発表(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの成果を確認する(計測中に倒壊した場合、その状態で計測) 	
まとめ (10分)	本時のまとめ ①	ワークシート記入	◇時間があれば、2~3名に感想を尋ねる。
まとめ (5分)	本時のまとめ ②	活動のふりかえり 挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ◆◇総括コメント(大崎 t・半澤) ◆ワークシート回収(森 t・原田 t → 半澤)

学 習 指 導 案

日 時	令和5年10月12日(木) 5校時	場 所	格技場、視聴覚室、ルーム2、3講
教 科	LHR	授 業 担 当 者	◎半澤、大崎、原田、吉田
単 元 名	コミュニケーションスキルトレーニング	対 象 者	2年A組 27名(男子10名・女子17名)
本 時 間	▶ ①「状況に応じて素早く整列」 ②「相手に受け入れられやすいように伝えること」		
2 学年目標	・自他の個性を受容する柔軟な心を持ち、互いに高め合える集団を作る。		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・見学旅行中、状況に応じた集合形態について、仲間と確認し合いながら的確に判断・理解し、素早く整列することができる。 ・「相手に受け入れられやすいように伝えるコツ」と「他者との関わりの中で心掛けるべきこと」を知り、思いやりを持ったコミュニケーションを実践しようとする努力することができる。 		
教材・教具	ワークシート、クリップボード、ストップウォッチ、タブレット端末、ポケットWi-Fi、ホワイトボード、第1回CST4カ条模造紙、CST第5条掲示物、セロハンテープ		

◇: MT ◆: ST ☆: 備考等

段 階	学習内容	生徒の学習活動	教員の指導・支援
		☆i-pad、筆記用具持参、格技場備品のホワイトボード前に集合(整列不要・席指定なし)。	☆ワークシートをクリップボードに挟んでおく。
導入 (5分)	挨拶 本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・日直が号令をかける。 ・CSTの目的を理解する。 ・活動中のルール(CST5カ条)を確認する。(第1回で設定したルールに1カ条追加) ・本時の流れを確認する。 	◇CSTのねらいを伝える。 ☞ 第1回CSTで実践した自己発信法を再確認し、実践に努めよう。充実した見学旅行にするために、事前に種々の確認をしておこう。 ◇【CST5カ条】 <ul style="list-style-type: none"> ・どの場面においても丁寧語で会話しよう ・相手の意見はひとまず受け止めよう ・自分の意見を押しつけないようにしましょう ・自分の良かった点、仲間の素晴らしい点を見つけよう&認めよう ・相手からの問い掛けに必ず反応しよう。
展開① (10分)	状況を的確に判断・理解し、素早く整列	お題に合わせ、仲間とコミュニケーションを取りながら整列する(声出し可)。 Lv.1 通常整列：出席番号順 縦3列 (制限時間 15秒) ※試行1回 Lv.2 出席番号順 横3列 (先頭の位置決め込みで、制限時間 35秒 → 25秒) Lv.3 義守大交流グループ別：3G (班長による人数確認・報告込みで、制限時間 60秒 → 25秒) Lv.4 自主研修グループ別：6G (班長による人数確認・報告込みで、制限時間 40秒 → 25秒) Lv.5 宿泊部屋別①：2人×16組 宿泊部屋別②：2人×16組 (制限時間 各30秒 → 20秒) Lv.6 スムーズなバスの乗り方を考える (意見の出し合い1分、確認2分)	★「自己発信」「他者受容・他者理解」に努めながら速やかに整列しよう。 ◇進行・号令(半澤) ◆計時(吉田)、撮影(原田)、巡視(大崎) ☆いずれの整列形態も、確認を踏まえて時間短縮を目指すよう、2回試行する。 ☆集合先(目印)は適宜変更する。 ◇数名を指名し、迷った点・工夫した点等の感想を発表させる。 ◇CST5カ条を踏まえながら仲間とコミュニケーションを取り合うことが重要かつ不可欠であることを言葉掛ける。 ◇Lv.3～5は、並び終えた班は座り、班長に人数報告させる。 ◇Lv.6は、宿泊部屋②の組で意見の出し合いを行わせ、タブレット端末を使用して指定のアプリへ入力 → 各組の見解を全員で確認 → 教師の説明

<p>展開② (25分)</p>	<p>(5分)</p> <p>(5分)</p> <p>穏やかな伝え方(8分)</p> <p>反応することの重要性(5分)</p>	<p>☆Padlet 使用 (Wi-Fi 不通の生徒用は Padlet 代替用ワークシートに書込)</p> <p>①「この人は話しやすい」「この人の言っていることは素直に受け入れやすい」と感じるのはなぜだろう。その理由を挙げるとともに、仲間の見解を確認する。</p> <p>☆予想される回答例 「常に穏やかな人・柔和な表情の人・笑顔が絶えない人」「最後までしっかり話を聞いてくれる人」「自分にとって信用できる人」 etc.</p> <p>②「話しにくい(声を掛けにくい)」と感じるのはどのような人だろうか。その理由を挙げるとともに、仲間の見解を確認する。</p> <p>☆予想される回答例 「語気が強い人・威圧的な人・上から目線な人」「相手を警戒しているような話し方の人」「自身のなさそうな話し方の人・目線を合わせない(相手の顔や目を見ようとしない)人」「テンションが高すぎる人・低すぎる人」 etc.</p> <p>③「穏やかな伝え方の要点」を知る。 ア. ゆっくり話す イ. 言葉尻まではっきり話す ウ. 言葉遣いと言葉のチョイスを意識して丁寧に話す</p> <p>・ア～ウの3点を意識しながらペアワーク「こんにちは。はじめまして。これから私たちと一緒に〇〇をやってみましょう」と言い合う。</p> <p>④「発信者が がっかりする」例を知る。 ア. 聞こえていないことを装い、無反応イ. おしゃべりに夢中で気付かないふりをされる。 ウ. かぶせ気味に意見をまくし立てられ、こちらの話に耳を傾けようとしてくれない。</p> <p>・声を掛けられた際、発信者を がっかりさせないようにするにはどのような振る舞いを心掛ければよいかを考える。</p> <p>☆予想される回答例 「必ず何らかの反応をする」「相手の話を最後まで聞くようにする」 etc.</p>	<p>★「穏やかな伝え方のコツ」「他者との関わりの中で心掛けるべきこと」を試行しよう。</p> <p>◇自身の経験、また、主観で構わないことを周知する。</p> <p>◇「多様な見解があることに気付くこと」、「臍に落ちない見解があったとしてもまずは受容に努めること(反対して構わないが、反論はしない)」を説明する。</p> <p>◇自身の経験、また、主観で構わないことを周知する。</p> <p>◇「多様な見解があることに気付くこと」、「臍に落ちない見解があったとしてもまずは受容に努めること(反対して構わないが、反論はしない)」を説明する。</p> <p>◇ア～ウのコミュニケーションスキルが身に付くと、「相手に安心して話を聞いてもらいやすい」「相手の納得度が高まる」「意見を求められる機会が増える」等の良好なコミュニケーションにつながることを助言する。</p> <p>◇声を出すことが難しい生徒は、聞き役に徹してよいことと、可能であれば会釈や頷きに挑戦してみることを事前に伝える。</p> <p>◇発信側として、また、受信側として、ア～ウのような経験の有無について、挙手によるアンケートをとる。</p> <p>◇生徒考察後、対応の例を提示する ・顔や身体を発信者の方へ向ける ・返事をする。 ・手が離せない場合は、後ほど声を掛けるようお願いする。 ・素直に「わからない」「〇〇に聞いてるといいかも」等と返答する。 etc.</p>
----------------------	--	--	---

<p>まとめ (10分)</p>	<p>本時の振り返り(5分)</p> <p>次時の予告(5分)</p> <p>挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 展開①および②の活動を通して、気付いたこと、今後心掛けたいこと、感想等をワークシートに記入。 • 6時間目の集合場所・開始時刻・集合形態を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・茶道・書道G・・・視聴覚室 ・日本の遊びG・・・ルーム2 ・漫画・アニメG・・・3講 • 6校時開始時、全員 視聴覚室に集合、交流グループ別に固まって着席（※座席自由、自Gメンバーが固まって座る、茶道・書道Gの設営の邪魔にならないよう注意） • 日直が号令をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ワークシートの取り組み方を説明する。 ◆ワークシート回収 ◇義守大交流グループ別の指定教室を指示する。 ◇仲間と協力し合い、迅速に次時の準備に取り掛かること、机・椅子の移動・配置も自分たちで行うことを指導する。 ◇引き続き、CST5カ条を意識しながら活動するよう言葉掛けをする。 ☆大崎 t、半澤 → 生徒とともに移動 ◆原田 t、吉田 t → 片付け・格技場の点検後、視聴覚室へ移動 ◇◆状況に応じて、ここまでの活動の頑張りに対する称賛と、次時の活動に向けての励ましの言葉掛けをする。
----------------------	---	---	---

学 習 指 導 案

日 時	令和5年10月12日(木) 6校時	場 所	視聴覚室、ルーム2、3講
教 科	LHR	授業 担当者	◎半澤、大崎、原田、吉田
単元名	コミュニケーションスキルトレーニング	対象者	2年A組 27名(男子10名・女子17名)
本時間	▶ ①「義守大交流の簡易シミュレーション」 ②「義守大生との交流時における適切な関わり方」		
2学年目標	・自他の個性を受容する柔軟な心を持ち、互いに高め合える集団を作る。		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成に向けて仲間と気持ちを合わせ、自分の役割を果たすことができる。 ・予想されるトラブルを把握し、対応策を講じることができる。 ・大学生との交流の場面において、回避すべき不適切なコミュニケーションを想定し、トラブルを未然に防ぐ対策を練るとともに、適切なコミュニケーションの仕方を確認することができる。 		
教材・教具	ワークシート、クリップボード、メモ用紙(A5用紙×60枚)、付箋、ストップウォッチ、タブレット端末、第1回CST4カ条模造紙、CST第5条掲示物、セロハンテープ		

◇:MT ◆:ST ☆:備考等

段 階	学習内容	生徒の学習活動	教員の指導・支援
休み時間 (10分)	移動・準備	☆休み時間内にセティング・役割分担・簡易練習等を済ます。	<ul style="list-style-type: none"> ◇◆状況に応じて、ここまでの活動の頑張りに対する称賛と、次の活動に向けての励ましの言葉掛けをする。 ◇◆視聴覚室へ集合するよう言葉掛けする。
導入 (5分)	挨拶 本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・日直が号令をかける ・簡潔に前時の振り返りをする ・本時のねらいおよび流れを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ◇視聴覚室に集合、義守大交流グループ別に固まって着席することを指示する。 ◇本時のねらいを説明する ☞目標達成に向けて気持ちを合わせよう、自分の考えを表示しよう、相手の考えを受け止めよう。
展開① (30分)	全体交流ロールプレイ (各G 8分) ロールプレイ5分 質疑応答・ メモ受け渡し 記録 3分 移動・準備 2分	<ul style="list-style-type: none"> ・ローテーション形式(各G交流×3)で交流内容を簡易的に実践する。 ・交流内容の実践を通し、自Gの課題や予想されるトラブル等を把握し、改善を図るべく対応策を練る。 ・学生役は「気になった点」「予想されるトラブル」「改善点・対策」についてメモをとりながら参加する。 ・実践順 <ol style="list-style-type: none"> ① 茶道・書道G・・・視聴覚室 ② 日本の遊びG・・・ルーム2 ③ 漫画・アニメG・・・3講 ・取り組み手順 <ul style="list-style-type: none"> ・交流内容の簡易シミュレーション ・学生役より指摘・助言を受ける&メモを受け取る ・学生役から得た情報、自分たちで気付いた点をメモにとる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ロールプレイ時における学生役の生徒たちの居場所を指示する(大崎 t) ◇◆困っている生徒・グループに対し、必要に応じて助言する(大崎 t・半澤) ◇◆活動開始・終了の合図(半澤・吉田 t) ◇◆撮影(原田 t) ◇◆励ましの言葉掛けや拍手等で生徒を鼓舞する ◇片付けは放課後に行うよう指示する。
展開② (10分)	ロールプレイの検証 改善を踏まえたシミュレーション	<ul style="list-style-type: none"> ・G別活動：メモをもとに、ロールプレイを検証する。☆A5用紙に記録→しおりに挟む ・改善点および修正箇所の洗い出し ・新たに気付いた「こんなとき どうしたらいいの？」の把握 ・改めてシミュレーションに取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ★全体交流する場面で予想されるトラブル等を挙げ、その対策を講じよう。 ◇進行・号令、巡視(半澤) ◆各Gへの助言(大崎 t) ◆撮影、巡視(原田 t) ◆巡視(吉田 t)
まとめ (5分)	本時の振り返り 挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・感想等をワークシートに記入する。 ・日直が号令をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆◇総括コメント(大崎 t・半澤) ◇時間があれば、感想を述べてもらう。 ◆ワークシート回収(吉田 t → 半澤)

学 習 指 導 案

北海道大樹高等学校 生徒指導部

日 時	令和5年5月31日(水) 5校時	場 所	体育館
教 科	LHR	授 業 担 当 者	◎高谷、昆、別段、高山
単 元 名	第1回 コミュニケーションスキルトレーニング	対 象 者	3年A組 【男子9名・女子14名】
本 時 間	心を一つに～チームビルディング～・グループとチームの違いは何か		
3学年目標	(2) 自他の個性を受容する柔軟な心を持ち、互いに高め合える集団を作る。		
本時の目標	●グループ(集団)からチーム(共通の目的を持った組織)へとクラスを成長させるために、アイコンタクトや対面型のコミュニケーションの意義に気づき、チームとは何かを考える。		
教材・教具	ワークシート(振り返りシート/心をひとつに)、マジック(赤、青、黒×各9本)、ホワイトボード4枚、クリップボード23冊、マジック回収袋、デジタイマー、コーン、パソコン、プロジェクター		

◇:MT ◆:ST ☆:備考等

段 階	学習内容	生徒の学習活動	教員の指導・支援
		☆体育の始業の体形に整列し、座る	☆パソコン、プロジェクター設置
導 入 (10分)	挨拶 本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 日直が号令をかける CSTの目的を理解する 本時の流れを確認する すれ違いのコミュニケーション例を知る 	◇目的及び伸ばしたい力を伝える ☞グループからチームになる！ ☞グループとチームの違いを知る！ ☞自分も相手も大切にコミュニケーション！ ☞学校祭を全員で楽しむための学習！！ ◇学習の流れを伝える ◆すれ違いのコミュニケーション例を説明する【別段t・高谷】スライド操作【高山t】
展開① (5分)	グループ分け	※8名ずつ2グループ・7名1グループを編成 ・同色を持つ教師の所に集まる	◆生徒と教員に、3色のマジックをランダムに配付する ◇同色の教員の所に集まるよう指示する
展開② (15分)	チームビルディング ～心を一つに～ (たけのこニョッキ)	W1 背中合わせて(3分) ・感想を記入する W2 対面して(3分) ・感想を記入する 作戦会議(1分間) W3 作戦タイム&対面して(1分) ・感想を記入する	◆W1は、MTの解説でSTが手本を示す ◇全体指導、計時、巡視 ◆担当グループへの詳細説明および進行 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《指導のねらい》 非対面型→対面型(非言語：表情、アイコンタクト)→対面型(表情+アイコンタクト+身振り+言語)を実践し、人間は様々な手段を用いて意思疎通を図っていることに気付かせ、グループからチームへの変化を体感させる</p> </div>
展開③ (15分)	グループとチームの違いを考えよう	<ul style="list-style-type: none"> 各グループでグループとチームの違いについて話し合いを行い、違いについてホワイトボードに記入する(10分) 各グループ発表する(5分) 	◆各グループにホワイトボードを配付する ◇発表終了後、グループとチームの違いについて各グループの意見をまとめる
まとめ (5分)	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 感想を発表する(各G、1名程度) ワークシートはクリップボードに挟み、各自で保管する 	◇グループを指名し、感想を聞く ◇6hの始めまでに“グーチャー”にて3～4人のグループになるよう伝える ◇デジタイマーをセット(10分間)

◎持ち物 筆記用具 ◎服装 ジャージ

学 習 指 導 案

北海道大樹高等学校 生徒指導部

日 時	令和5年5月31日(金) 6校時	場 所	体育館
教 科	LHR	担当者	◎高谷、昆、別段、高山
単元名	第1回 コミュニケーションスキルトレーニング	対象生徒	3年A組 【男子9名・女子14名】
本時間	ドラえもんから学ぶ ～アサーショントレーニング		
3学年目標	(2) 自他の個性を受容する柔軟な心を持ち、互いに高め合える集団を作る		
本時の目標	●学校祭に向けて、互いの意思を尊重したコミュニケーションの在り方を考える ●自分の言動が周りに与える印象と影響に配慮して発信する意識を育てる		
教材・教具	ワークシート(アサーショントレーニング/こんなとき、どうする?)、付箋紙(ピンク・黄・水色) クリップボード23冊、デジタイマー、パソコン、プロジェクター、模造紙、マジック(8セット)		

◇:MT ◆:ST ☆:備考等

段 階	学習内容	生徒の学習活動	教員の指導・支援
	集合	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに集まり、座って待機 	☆グループ(3~4人)ごとに集まるよう促す
導 入 (5分)	アサーションとは	<ul style="list-style-type: none"> 自身のコミュニケーションタイプを知る(シーン①~⑤) コミュニケーションには、大きく分けて4つのタイプがあることを知る <p>→ 攻撃的タイプ(ジャイアン) 非主張的タイプ(のび太) アサーティブタイプ(しずかちゃん) カメレオンタイプ(スネ夫)</p>	<p>◆5つの場面を演示する</p> <p>Ⓐ昆 t、Ⓑ別段 t、Ⓒ高山 t、Ⓓ高谷 t (ジャイアン) (のび太) (しずかちゃん) (スネ夫)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《指導のねらい》 アサーティブなコミュニケーションの在り方を意識付け、展開での意見交換を方向付ける</p> </div>
展 開 (30分)	こんなとき、 どうする? ~アサーティブに 解決しよう!~	<p>事例検討~KJ法でまとめよう 『学校祭クラス企画の計画』</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例についてロールプレイをする(5分) KJ法でグループの意見をまとめる <p>1) 個人の意見を付箋に書く(5分間) 2) カテゴリー分け&意見交流(20分間) 3) タイトルや補足を記入</p> <p>結論 アサーティブな対応を導き出す</p>	<p>◇全体指導、計時</p> <p>◇◆ロールプレイがスムーズに進められるようフォローする</p> <p>◇◆KJ法の運営をする(2班ずつ担当)</p>
<p>時間に余裕があれば 深めるワーク: 様々な立場にいる仲間の気持ちに立って考える ★『話を聞いていない人』『適当に流される人』『参加したくてもやり方が分からない人』など</p>			
まとめ (10分)	本時のまとめ 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 成果を発表する(残り時間を見て、4G程度) よいアイデアはメモする 自分も相手も大切に<u>するコミュニケーションの在り方を知る</u> ワークシートに感想を記入する 日直が号令をかける 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《指導のねらい》 自分自身は?あの時のあれって?と、振り返ったり、実際の場面で気付きにつながるよう導く</p> </div> <p>◇高谷より ~第1回CSTまとめ~</p> <p>◇ワークシートと物品の回収を指示する</p>
	終了後	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート、物品を返却する 	

学 習 指 導 案

北海道大樹高等学校 第3学年

日 時	令和5年10月18日(水) 5・6校時		場 所	第4講義室
教 科	LHR		授業担当者	◎昆、高谷、別段、高山、南部
単 元 名	第2回コミュニケーションスキルトレーニング		対 象 者	3年A組23名 男子9名、女子14名
本 時 間	ソーシャルスキルトレーニング ～自分の力で生きていくために必要なことランキング～			
3学年の目標	自ら学ぶ態度を養い、社会において主体的に生きる力を育成する。			
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「自立」について考え、自分に足りない(弱い)ところに気付き、残りの学校生活の課題・目標とすることができる。 ・自分の未来に明るい展望を持つことができる。 			
教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・マグネット ・マジック6本(各班1本) ・模造紙各班1枚 ・付箋9枚×全員(計207枚) ・ランキングシート(裏面4つの「できる」)×全員 ・筆記用具(各自) 			
段 階	学習内容	指導のねらい・学習活動		
		生徒の学習活動	教員の指導・支援	
	班分け	教室と同じ席で着席し、指示に従って班を作る。	4人×4班 + 3人×2班 = 22人 (欠席1名) 班を決めさせ、班ごとに座らせる。(昆)	
導 入 (5分)	①説明(3分)	・本時のねらいを確認	本時の流れを提示 説明(昆)	
展 開 (85分) 休憩含む	②自分の力で生きていくために必要なことはなに? (35分)	<p>トレーニングの目的、内容について理解する。</p> <p><配付> (5分) ・班の代表生徒は配付物を取りに行く。 ・生徒一人一人に配付し、作業がしやすいように少しずつ間隔を取る。</p> <p><個人ワーク> 4つはこちらから示す。のこり5つをふせんに記入する。(10分) ランキング付けをする。(10分)</p> <p><発表> (10分) 班内で発表をする。 お互いのランキング付けの理由を聞き、色々な考えや価値観があることに気づく。</p>	<p>卒業後、それぞれの進路に向かって様々な生活がスタートする。新たな生活がスタートするにあたり、自分の力で生きていくためにはどんなことが必要なのか考えさせる。</p> <p>*1班分の配布物(5班分、1班分だけ×3) →別段T ・ふせん(9枚1セット×4) ・マジック 各班1本 ・ランキングシート 4枚(裏面に4つの項目をプリント)</p> <p>シート裏面の4つの項目は、各自付箋に太字の部分だけ記入して貼る。</p>	
	③グループ内発表 (20分)	<班ワーク> (20分) 自分で作ったランキングシートを元に班ごとに相談して、1枚のランキングシートを創り上げる。自分で作った物はバラして良い。	*配布物 →別段T ・ランキングシート配布 各班1枚 (上記と同じもの)	

<p>休憩 時間があれば</p>	<p>④4つの自立に分類 (20分)</p>	<p><移動> ・3班ずつ2グループにする。 <グループ内発表> ・1班5分程度の時間で発表する。 ランキングの高い順から、なぜそうしたのか理由もつけること。</p> <p>自分が書いた5枚の付箋をはがし、「4つの自立」に分類する。 班ごと(10分) → 全体 へ(10分)</p>	<p>教員は、担当の場所に行き、生徒を待つ。 (高谷、別段、高山、南部)</p> <p>教室を大きく2つに分け、2つのグループにする。各グループ3つの班の中で発表をする。</p> <p>*配布物 → 別段T 「4つの自立」プリント 4枚セット、新品の模造紙1枚を各班へ *班ごとに分類させる。 分類に迷っている生徒のサポート *分類した模造紙を、黒板に貼り付ける。</p>
<p>まとめ 15分</p>	<p>本時のまとめ 時間があれば</p>	<p><移動> 正面を向いて整列。 <まとめ>(昆)</p> <p>1) 4つの自立のキーワード「社会的自立」「生活的自立」「精神的自立」「経済的自立」を知る。 2) ワークシートに、キーワードを書き取る。 3) 自分に足りない(弱い)ところを一つあげ、残りの学校生活での目標を立てる。ワークシートに記入。</p>	<p>「4つの自立」のキーワードを提示する。 「自分の力で生きていく」=「自立」である。高校卒業が一つのタイミング。 親はいつまでも生きていない、いつまでも学生ではいられない。社会に貢献する人材とならなければならない。 今後叶えたい夢、希望、目標達成のためにも自立は不可欠である。</p> <p>各先生方からコメント</p>

(2) 共生社会ワークショップ

① 目的

身近な社会課題を体験的に学ぶことで、自らの生活に関連する諸問題について探究する手法を身につけるとともに、意見の違う個々人が共感的感情や合意を形成する活動の過程を学び、それらの意義を理解する。

② 対象生徒

2 学年生徒 27 名

③ 活動の概要

本活動は、藤女子大学人間生活学部人間生活学科准教授の松田剛史氏を講師に招き、2023 年（令和 5 年）11 月 13 日（月）3～4 校時に実施された。

生徒を 7 グループ（各 3～4 名程度）に分け、前半では自らの「7 年前」「7 年後」を想定し、その想定を他者と共有することで、SDGs の目標達成の年である 2030 年を自分ごととしてとらえることをめざした。後半では、特定の図（SDGs 17 のアイコン）を説明等を付さずに示して、それをもとに自由な発想を意見交換することで、各人の意見の違いを意識させた。なお、生徒間の意見共有については、模造紙への記入と発表のほか、成果物である模造紙を座席に残して自由に見て回り、考えたことを付箋に書いて貼り付けさせる等の形式を用いて行われた。さらに、アイコンにタイトルを付け直す作業や、アンケートに回答させる作業を通じて、異なる意見に共感し、それらをまとめ、合意を形成する手法についても実践的に学習させた。



④ 成果及び評価

受講した生徒たちは「人によって見るものが同じでも感じ方が違うことに気づくことができた、今まで一緒にいた人でも知らないところがあって新しい一面を発見することができた。」「固定概念がなくなった。」などとアンケートに回答しており、同じ事象についても各人に意見の違いが存すること、その意見を共有しアイデアを出し合うことで合意を形成できることを理解させることができたと考えている。

また、「7 年前」「7 年後」を意識させたことにより、「自分の過去、現在、未来のことを考えることで自分の性格や人物像を知ることができた。」などのコメントにみられるように、自己理解の進展という成果もみられた。

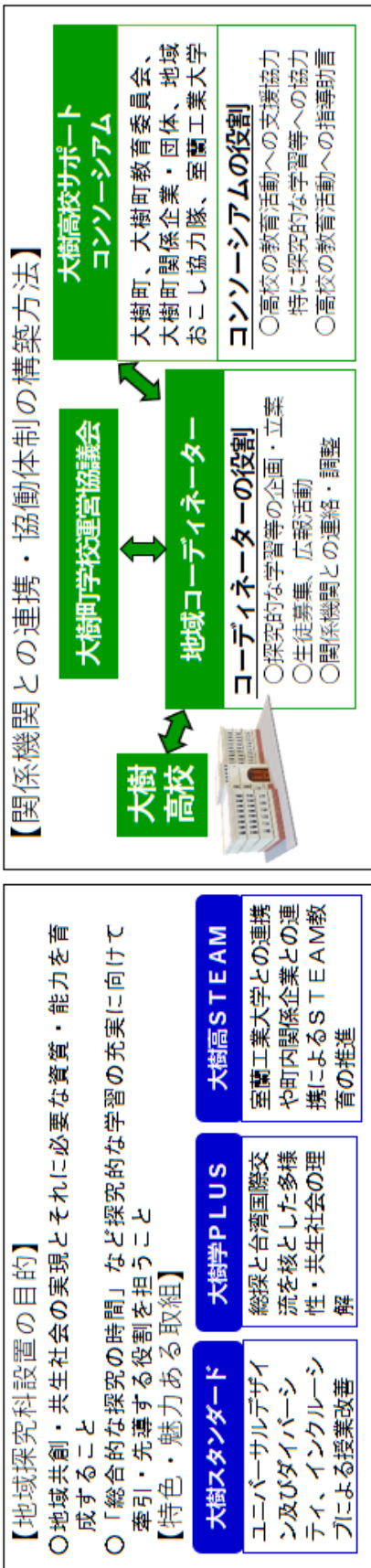
ここで得られた成果を今後どのように活かしていくかを受講生徒に問うたところ、「SDGs の目標を達成するために、自分にできることはあるかを改めて考えるきっかけになると感じました。」「課題研究の時に他の人から意見をもらったりしていろいろな立場から物事を見られそうだと考えた。」等の解答があり、自らの生活に関連する諸問題について探究する手法を身につけるとい目標についても、一定程度達成できたと評価している。

⑤ 今後の課題

共生社会ワークショップは探究的な手法を学びつつ合意形成の手法や意義を理解させる上で有意義であり、今後も同水準の講座を継続的に実施していくことを希望したい。また、今年度は高校側担当者、学年団の教員ともに、講座実施の内容と効果等についての情報共有や理解が十分でなかった部分があり、生徒への事前指導が不十分であった。生徒の学習効果をさらに高いものとするために、この講座で学んだ手法を用いることができる場を講座の前後に意識的に設定し、「手法を身につける」という学習目的を教員と生徒が共有する等の方策を講じる必要がある。

III 成果概要図

【北海道大樹高等学校】地域社会学科（令和6年度地域探究科設置（予定））



【令和5年度の目標】

- (1) 個別最適化の学習体制の維持・発展
- (2) 「大樹学」の見直し小中高一貫キャリア教育の協議
- (3) 1学年における進路・自己探究、2学年における異文化・多様性探究の工夫・改善
- (4) 3学年の生徒が地域の課題解決方策等について町に提言
- (5) 地域課題の解決に向けた考察の結果を情報発信する探究学習へと改善
- (6) 各教科と室蘭工業大学の連携授業の内容の関連性や難易度の設定を整理し、育成を指す資質・能力の向上に効果が現れるよう工夫・改善
- (7) STEAM委員会を中心に、教科等横断型学習単元配列表を作成
- (8) 新学校設定教科・科目のシラバス・ルーブリック等の必要事項を作成
- (9) JAXAのエアロスペーススクールのプログラムに参加生徒のほか、プログラムの一部を他の生徒にも提供

【取組状況】

○ 実施	(1) ○	(4) ○
△ 一部実施	(2) ○	(5) ○
	(3) ○	(6) △
		(7) ○
		(8) △
		(9) △

【成果と課題】（○成果、●課題）

- 学校設定科目の先行実施により、地域の基幹産業である第一次産業をはじめとする地域の多様な産業を題材に、他者と協働しながら地域の課題解決に向けて探究する内容への改善を図る必要があり、当初に計画していた学校設定科目「情報と宇宙」（2単位）から「地域デザイン」（3単位）に変更した。
- 大樹町が取り組んでいる航空宇宙産業誘致による町づくりにより主体的に参画する生徒の育成を目指すため、より一層総合的な探究の時間と関連させ、体系的に探究活動をする内容とした。
- 学習内容が増えることにより、単位数を3単位とし、2学年で2単位、3学年で1単位の継続履修とする教育課程を編成した。
- 次年度は、「地域デザイン」の具体についてより明確化し、総合的な探究の時間との体系的な探究活動の内容について、コンソーシアムメンバーの支援・協働体制の充実を図る必要がある。

別添資料5